

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2025 年
6 月 1 日発行
第 284 号

歌った！踊った！聴いた！食べた！楽しい「五月祭」でした！

山々の緑も深みを帯び、大自然は力強く生き生きと命をみなぎらせております。平素は聖母の小さな学校の教育にご理解、ご協力をいただき、深く感謝しております。

さて、4 月に原籍校へ復帰した生徒たちも、戸惑いを見せながらも、少しずつ自分の歩みを進めております。また、継続して本校に在籍しながら次のステップへ歩みを進めている生徒も、高校での 5 月末の中間テストを終え、ほっとしている様子が見られます。6 年ぶりの定期テストです。独自の良い歩みを続けていると思います。必ず自身の将来を形作っていく事でしょう。

また、中学生になり、自分自身の考えや思いをどのように表していくのか、小学生の時と違って、思うようにゆかず、戸惑いを見せている子どもたちも大勢おります。本校では、「学校に行かせる」という解決を急がず、この「とまどいの時」を成長発達のプロセスと捉え、教育に当たっています。生徒一人ひとり異なりますが、独自のプロセスを歩み、社会参加を必ず遂げていきます。同時に、その生徒に伴走する教師、また、共に支える保護者たちも含めて成長する姿を見ます。どうぞ「人間の成長」というプロセスを、焦らず、聖母と原籍校、家族が一つになって歩んでくださいますよう、お願い致します。

ある保護者（父親）が、「子どもが不登校になって、最初はなぜこうなったか分からず、他の兄弟二人は学校に行っている、なぜお前だけ…と、子を責め立てていた。聖母と相談しながら、一生懸命、真剣に子どもを見つめ、子どもと共に生活し、小さな好ましい変化に気づいてゆくと、子どもの事が少しずつ分かるようになった。そうすると、『学校に行ってくれたら』というその事だけが目的ではなく、この子を人間としてどう育てるかに目がいくようになった。『一生懸命、真剣に子どもを見る』という事も最初は分からなかったけど、だんだん分かるようになった。親と子のつながりが強くなっていたのを感じる。この子が不登校になってくれたおかげで、強い絆で結ばれた親子になった」とおっしゃいました。

5 月 31 日は本校の創立記念日であり、これを祝う「五月祭（聖母ファミリーデー）」が行われました。在籍生、卒業生、保護者 20 余名と聖母に関わる多くの方々の総勢 63 名で、聖母ファミリーを実感した 1 日になりました。保護者は子どもたちの成長を語り、また、自らも社会を見る目、人間にとって何が一番大切なのかを知った、この心のつながり、また、不登校を体験したこと得た人間へのまなざしの暖かさ、人は人から一生懸命、真剣で「見つめられる」だけで、生きていく力をもらうこと、不登校を体験した喜びを語られました。卒業生も、聖母で学んだ「私自身の尊さを知り、人との比較ではなく生きる！ということ」を胸に、私は私として生きていく」喜ばしさを話しました。現役生も、大いに励まされた 1 日でした。

また、集ってくださった全ての方々には「聖母の子どもたちの今を否定しない姿勢」、「今、困難を生きる子どもたちと保護者を受け止め、理解しようとする姿勢」がありました。

またウズベキスタンからの留学生と共に民族舞踊を一緒に踊り、ソプラノ歌手の素晴らしい「アヴェマリア」の歌声に聴き入り、美味しい巨大ケーキ（デザインは、本校のスポーツフェスタ 2024 のパネル画）に舌鼓を打ち、保護者たちが熱い心をこめて作った焼きそば、おにぎりもおいしく、心に沁みました。まさに「ファミリー」でした。来年の再会を約束しながら、別れを惜しみました。

6 月もまた、新しい生徒のための学習行事を組んでゆきます。今月もよろしくお願い致します。

